283 肝シンチグラムにおける ^{99m}Tc–sulfur colloidの肺への取り込み ——臨床的意義について

白土博樹、伊藤和夫、古館正従、入江五朗（北大、放） 斉藤知保子、小柴隆蔵（市立札幌、放）

肝シンチグラムにおける ^{99m}Tc–colloidの肺への取り込みは予後不良に関連し、肝の異常所見の合併率が高いと言われている。過去3年間に肺の取り込みを示した51例と肺描出のないコントロール49例につき、臨床的に比較検討した。

両群の間に罹患した疾患には有意差を認めなかった。血清総蛋白コリンエステラーゼ値は肺描出群で有意に低値を示した。肺描出群において41名中10名が検査後30日内に死亡し、30日内死亡率は有意に高かった。しかし、肺軽度描出群ではコントロールと予後に有意差なく、また中等度以上の描出群の中では悪性腫瘍か否かで予後に差を認めた。肺描出者3例の剖検結果では特異的肺病変を認めなかった。肺描出の臨床的意義は、疾患の種類、肺描出の程度、経時的推移により異なった評価をすべきである事が示された。

284 RIA法によるB型肝炎ウイルス・マーカーの測定 —とくに他の測定法との比較—

室 豊吉，中田恵輔，河野健次，古河隆二，楠本征夫，石井伸子，棟久龍夫，小路敏彦，長瀧重信（長崎大，1内），五十嵐久永，宮本 勉（同大細菌）

B型肝炎ウイルス感染の血清学的ウイルス・マーカー中 Hepatitis B Surface(HBs) 抗原，HBs 抗体，Hepatitis B core (HBc) 抗体を Radioimmunoassay (RIA) 法で測定し，他の測定法による結果と比較検討した。

被検者は，当科で肝集検を行っている五島富江町住民中若年者427名（男214，女213，年令10～17才）である。RIA 法による HBs 抗原・抗体，HBc 抗体測定は，それぞれ Ausria II－125，Ausab，HBc リアキットで行った。さらに，同一血清で HBs 抗原は reversed passive hemagglutination (RPHA)，抗体は passive hemagglutination (PHA)，HBc 抗体は reversed passive hemaggtutination inhibition (RPHI) 法で測定した。

HBs 抗原陽性は6例で，うち5例は RIA，RPHA 法で一致し，残り1例は RIA 法のみ陽性であった。同抗体陽性は31例で，うち24例が RIA，PHA 法で陽性，残り7例は RIA 法のみ陽性であった。HBc 抗体陽性は50例で，うち41例は RIA と RPHI 法で一致し，残り9例中8例は RIA，1例は RPHI 法のみ陽性であった。以上のごとく，RIA 法は従来の測定結果と相関した。

285 各種肝機能異常群における血清フェリチン値の検討

鈴木照夫，国分啓二，五十嵐忠行，樋口利行，海野政治，松田 信，内田立身，刈米重夫（福島医大第一内科）田中鉄五郎（済生会福島総合病院内科）

フェリチンは主として実質細胞内に存在する鉄貯蔵蛋白である。しかし 1972 年，正常人血清中にも，微量のフェリチンが存在することが証明され，その値は各種疾患の鉄代謝を鋭敏に反影し，病態の把握に有力な情報を提供するようになった。またフェリチンはその大部分が肝実質細胞に存在するため，急性肝炎やその他の疾患による肝細胞壊死によって，血清フェリチン値は大きく変動する。我々は今回，各種肝疾患，とくに急性肝炎，閉塞性黄疸，肝悪性腫瘍における血清フェリチン値とそれぞれの病態の変化によるその変動に関して検討し，若干の知見を得たので報告する。

286 内視鏡的経直腸門脈シンチグラフィーによる門脈循環動態の検討。

工藤正俊、伊吹康良、藤見勝彦、冨田周介、小森英司、遠藤義彦、沖本芳春、藤堂彰男、北浦保智（神戸中央市民、消内）朽尾人司、才木康彦、伊藤秀臣、森本義人、池窪勝治（同、核）、 向井孝夫、鳥塚莞爾、（京大、核）

内視鏡的経直腸門脈シンチグラフィーを施行し、主として肝硬変症例（41例）における門脈循環動態について検討した。絶食完腸後、肛門より約25cmの部位に内視鏡を挿入し、直視下に大腸内腔を確認後、鉗子口よりチューブを挿入して内腔中央に向け $^{99m}TcO_4^-$ 10mCi（1mℓ）を50mℓの空気で注入した。内視鏡下に注入した理由としては、①中・下直腸静脈叢を介して大循環系にRIが混入するのを避け、確実に門脈循環系に注入する。②直視下に内腔を捉え便汁等の残存による大腸粘膜よりのRIの吸収差によるバラつきをなくす。③X線透視確認法よりも簡便である為である。RI注入直後より4秒毎20分間のデータを収録し、CRT上にて肝心脾の各々に関心領域を設定し、そのタイムヒストグラムより心肝摂取比を算出した。心肝摂取比と食道・胃静脈瘤の程度との相関性及びFiltered Back Projection 法により作成した肝シンチグラムのECT画像を積分して算出した肝及び脾容積との相関の有無についても検討した。

Presented by Medical*Online